

【ご使用になる前に】 [取扱い説明書はホームページ(<http://www.dynafluid.co.jp>)に掲載しています。事前に必ずお読み下さい]

● **フィックスド・ローディング・スプリングの確認**

スチーム圧力に合ったスプリングに入れ替えて下さい。(水圧は関係ありません)

納入時にご指定のない限り“弱”(スチーム圧力 0.35MPa 以下)のスプリングがセットされています。

フィックスド・ローディング・スプリングの分類表

接続口径	スチーム圧力 (MPa)	フィックスド・ローディング・スプリングの分類			最低吐出流量 (ℓ/分)
		強度	色	マーキング	
15A	0.7 ~1.05	強	黄色	Ⅲ	4.5
	0.35 ~0.7	中	緑色	Ⅱ	2.7
	0.035~0.35	弱	黒色	Ⅰ	2.7
20A	0.7 ~1.05	強	赤色	Ⅲ	8.2
	0.35 ~0.7	中	青色	Ⅱ	6.8
	0.035~0.35	弱	白色	Ⅰ	6.2
25A	0.7 ~1.05	強	赤色	Ⅲ	36.3
	0.35 ~0.7	中	青色	Ⅱ	31.8
	0.035~0.35	弱	白色	Ⅰ	27.2
40A	0.7 ~1.05	強	赤色	Ⅲ	54.4
	0.35 ~0.7	中	青色	Ⅱ	54.4
	0.035~0.35	弱	白色	Ⅰ	54.4

*各サイズ毎に“最低の吐出流量”があります。これ以上の吐出流量がないと温水になりません。

*付属として中のスプリングが箱の中に入っています。

- チャッキ弁は必ず冷水側、蒸気側に1台ずつミキシングバルブ直近に設けて下さい。スウィングチャッキ弁は必ず水平に取り付けて下さい。
- Y型ストレーナーも設置して下さい。40メッシュか60メッシュが良いです。
- 25A, 40Aの場合、1台のミキシングバルブから数か所に分岐しないで下さい。15A, 20Aは2~3か所への分岐は可能ですが吐出温度に変化が生じます。
- 水配管に塩ビ管は使わないで下さい。
- 凍結の恐れのある所では、ご使用後は必ず水抜きをして下さい。
- 床洗浄には25ℓ/min以上の水量が必要です。水圧は0.15MPa以上必要です。20Aをお勧めします。
- 常に一定の圧力と一定の温度で使用いただければ、温水温度は一定に保てます。もし圧力の変動が激しい場合には減圧弁を設置して下さい。
- 取り付け前に配管内を必ずブローして下さい。ブローが悪いと切粉、スケール等が詰り作動不良の原因になります。

- ミキシングバルブは重量があるので付属のブラケットを壁面に固定し両端のパイプをUバンドで支持して下さい。
- ミキシングバルブの接続口センターと配管のセンターは合わせて下さい。ユニオンからの漏れの原因になります。蒸気配管には配管の収縮を吸収するためフレキの設置又は同等の処置をして下さい。
- 工場出荷時のコントロールノブの位置は COLD になっています。ミキシングバルブを設置後コントロールノブを徐々に HOT に調整して下さい。
- 温水の吐出口は 2 か所あります。不要の方をプラグで必ず締めて下さい。
- 冷水配管と蒸気配管は、本体の表示に従って接続して下さい。
- 吐出側にゴムホースを接続する場合は、使用するホースジョイントやカプラは必ずフルボアのものを使用して下さい。出口先端にバルブを設ける時はボール弁を使用して下さい。
- 吐出側配管は背圧を掛ける（配管を立ち上げる。サイズダウンする。蛇口で絞るなど）ことは避けて下さい。背圧が掛かると仕様の性能が出ません。
- 吐出側水量を変えると温水温度が変わります。その時は再度温度調整をして下さい。できるだけ一定水量で使われることをお勧めします。
- シャワーには直接使用しないで下さい。
- 温度を上げすぎると蒸気が出ることがあります。「吐出流量表」の最大温度より上げないで下さい。
- スチームの弁座にはテフロンが使われています。安全確認を 1 ヶ月毎に行ってください。「安全確認方法」をご覧ください。
- 出口弁は速やかに開閉し、全開、全閉でご使用下さい。

【安全確認方法】

1. 温水を出したままで、冷水の一次側ストップ弁を閉めます。
吐出口からの温水は完全に止まりますので、吐出口の状態を見て下さい。
温水が止まり、吐出口に何の現象も起こらない。⇒この状態ならミキシングバルブは正常に作動しています。
温水は止まったが蒸気が出てきている。⇒スチーム漏れです。
2. 吐出側に温度計を取り付けてある場合は
温水を止めて、しばらく経って温度計の針がどんどん上昇していくようであれば、スチーム漏れを起こしている状態です。
正常の場合は、温度計の針は温水を止めた時の温度を指したままで、やがて温度は徐々に下がっていきます。又は、温水を止めた瞬間、若干上昇してもその位置以上には上昇せず、やがて温度は下がっていきます。

スチーム漏れは、
 - ① 温度コントロールの仕方の問題（必ず温度コントロールノブを OFF の状態から徐々に上げて行って下さい）
 - ② ミキシングバルブ内のスチーム吐出口のテフロンシートが摩耗したり、傷が付いた状態です。
 - ③ 工場新設の直後など配管内に付着している“スケール”“切り粉”“ゴミ”などがスカート型ピストンの周りに付着してピストンが浮き上がった状態、又はピストンが上下できなくなり温水にならないか、熱湯もしくはスチームの吹き出した状態です。